第二講　『資治通鑑』／『史記』

一　次の文章は、唐の太宗と長孫皇后についての逸話である。これを読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で返り点および送り仮名を省いたところがある。

長楽公主将出降。上以公主皇后所生、特愛之、勅有司資送倍於永嘉長公主。魏徴諫曰、「昔漢明帝欲封皇子、曰、『我子豈得与先帝子比』。皆令半楚・淮陽。今資送公主、倍於長主、a得無異於明帝之意乎」。上然其言、入告皇后。后嘆曰、「妾亟聞陛下称重魏徴、不知其故。b今観其引礼義以抑人主之情、乃知真社稷之臣也。妾与陛下結髪為夫婦、曲承恩礼、毎言必先候顔色、不敢軽犯威厳。c況以人臣之疎遠、乃能抗言如是。陛下不可不従」。因請遣中使齎銭絹以賜徴。

上嘗罷朝、怒曰、「d会須殺此田舎翁」。后問為誰。上曰、「魏徴毎

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

廷辱（はづかしムト）レ我（ヲ）」。后退（キテ）、具（ヘテ）二朝服（ヲ）一立（ツ）二于庭（ニ）一。上驚（キテ）問（フ）二其（ノ）故（ヲ）一。后曰（ク）、「妾聞（クナラク）主明（ナレバ）臣直（ナリト）。今魏徴（ノ）直（ナルハ）、由（ル）二陛下之明（ナルニ）一故也。e妾敢不賀」。上乃（チ）悦（ブ）。

（『資治通鑑』による）

〔注〕○長楽公主――太宗李世民（在位六二六～六四九）の娘。　○出降――降嫁すること。
○有司――官吏、役人。　○資送――送別のとき金銭や財貨を与えること。
○永嘉長公主――高祖李淵（在位六一八～六二六）の娘。　○魏徴――唐初の政治家（五八〇～六四三）。
○楚・淮陽――楚王劉英と淮陽王劉延のこと。いずれも後漢の光武帝の子、明帝の異母兄弟。
○結髪――結婚すること。　○中使――天子が派遣した使者。
○朝服――儀式の際に身につける礼服。

問一　「得（レ）無（レ）異（二）於明帝之意（一）乎」（傍線部ａ）を、明帝の意が明らかになるように平易な現代語に訳せ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　「今観㆘其引㆓礼義㆒以抑㆗人主之情㆖、乃知㆓真社稷之臣㆒也」（傍線部ｂ）を平易な現代語に訳せ。

問三　「況以㆓人臣之疎遠㆒、乃能抗言如㆑是」（傍線部ｃ）を平易な現代語に訳せ。

問四　太宗が怒って「会須㆑殺㆓此田舎翁㆒」（傍線部ｄ）と言ったのはなぜか、簡潔に説明せよ。

問五　長孫皇后はどのようなことについて「妾敢不賀」（傍線部ｅ）と言ったのか、簡潔に説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈講義動画中に使用します〉

五常（普遍的な倫理道徳）

「　　」…普遍的な深い人間愛・他者への思いやり。

＊「忠(ちゅう)・恕(じょ)」…真心・思いやり

「　　」…人の行うべき正しい道・正義。

「　　」…秩序・社会生活のルール・礼法。

「　　」…道徳的分別。

「　　」…人を欺かない誠実さ。

五倫（特定の人間関係〔父子・君臣・夫婦・長幼(ちょうよう)・朋友(ほうゆう)〕における道徳）

『孟子』より

「父子親(しん)有り、君臣義有り、夫婦別有り、長幼序(じょ)有り、朋友信有り」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二　次の文章をよく読んで、後の設問に答えよ。

秦攻趙。斉楚救之。秦計曰、「斉楚救趙。親則退兵。不親遂攻之」。趙無食。請粟(注1)於斉。斉不聴。周子(注2)曰、「Ⓐ不如聴之以退秦兵。不聴則秦兵不卻。是秦之計中、而斉楚之計過也。且趙之於斉楚、捍蔽(注3)也。①猶歯之有脣也。脣亡則歯寒。今日亡趙、明日患及斉楚。且救趙之務、宜若奉漏甕(注4)沃焦釜(注5)也。夫救趙高義也。卻秦兵顕名也。義救亡国、威卻彊(注6)秦之兵。不務為此、而務愛粟、為国計者過矣」。

（『史記』より）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔注〕
1　粟（ぞく）――穀物の総称。
2　周子曰（しうしいはク）――周子は斉国の臣下。以下の周子の発言は斉王に対してなされたものである。
3　捍蔽（かんぺい）――みずからの身をおおい、敵から守るための防備。
4　漏甕（ろうをう）――水が漏れるかめ。
5　焦釜（せうふ）――焦げつくかま。
6　彊（きやう）――強に同じ。

問一　傍線部①について、
（ア）書き下し文にせよ。
（イ）ⓐ「歯」ⓑ「脣（くちびる）」は、それぞれ何のたとえとして使われているか、本文中の語で答えよ。

ⓐ＝

ⓑ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部Ⓐについて、

（ア）「之」の指す内容を明らかにしながら、わかりやすく現代語訳せよ。

（イ）周子は、この対応により、斉国はどのような評価が得られると説いているか、わかりやすく説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈講義動画中に使用します〉

「於」

❶「於」がVの下→置き字

SV二於C一

SV二O於C一

❷「於」がVの前→直後のNから返読する

S於レNV　〔SNに於(おい)てV〕

「〜はNに於(おい)て・〜のNに於(お)ける」＝「Nにとって・Nに対して・Nに対する関係は・Nによって・Nで・Nから」

（例）呉王於(ハテ)レ朕(ニ)兄也。　〔呉王は朕に於て兄なり。〕　（呉王は　　　　兄である。）

（例）吾於(ケル)レ人(ニ)也、聴(キテ)二其(ノ)言(ヲ)一而信(ゼリ)二其(ノ)行(ヒヲ)一。　〔吾人に於けるや、其の言を聴きて其の行ひを信ぜり。〕

（私は　　　　、その言葉を聞いてその行いを信じた。）

（例）北条氏之於(ケルハ)二源氏(ニ)一、則(チ)藤原氏之於(ケル)二平家(ニ)一也。

〔北条氏の源氏に於けるは、則ち藤原氏の平家に於けるなり。〕

（北条氏の源氏に対する関係は、藤原氏の平家に対する関係（と同じ）だ。）

「戦国の七雄」…秦・斉・楚・趙・燕・魏・韓

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講

① 「［A］君前途尚ホ可ナルヲヤ。」の空欄［A］にあてはまる文字として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　猶　　イ　当　　ウ　応　　エ　況　　オ　将

② 「大恩難報不如殺之。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　大恩は報い難く、之を殺すが如くせず

イ　大恩は難く、報いるに之を殺すが如くせず

ウ　大恩は報い難く、之を殺すに如かず

エ　大恩は報いて之を殺すが如くせざること難し

オ　大恩は難く、報いるに之を殺すに如かず

③ 「斉ノ荘公出デテ猟ス。有リ二一虫一。挙ゲレ足ヲ将撃其輪。」の傍線部を平仮名で書き下し文にせよ。

注　虫…ここでは「かまきり」。

④ 「請粟於斉。」を書き下し文にせよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤　「趙之於斉楚、捍蔽（かんぺい）也。」の傍線部を現代語訳せよ。

注　捍蔽…みずからの身をおおい、敵から守るための防備。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第二講】

〔模範解答〕

一

問一　自分の子を先帝の子より重んじるべきではないと考えた明帝のお心とは違ってしまいます。

問二　今、魏徴が正しい道理を引用して、それで主君の私情を抑制したのを見て、そこで魏徴が本当の国家の重臣であることがわかりました。

問三　まして家臣という疎遠な立場で、なんとこのように主君に諫言できたのです。

問四　魏徴が朝廷で毎回諫言して自分に恥をかかせるから。

問五　魏徴が率直に諫言できるということは、君主である太宗が賢明だという証であること。

二

問一　（ア）猶ほ歯の脣有るがごときなり。

（イ）ⓐ＝斉楚　ⓑ＝趙

問二　（ア）趙に穀物を与えることを許可して、そうして秦の軍隊を趙から退却させるに越したことはないです。

（イ）趙を救うことで高く優れた道義を持っているということと、秦の軍隊を退けることによって名声が得られ、強い国力も持っているという評価。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔現代語訳〕

一

（太宗李世民の娘の）長楽公主が降嫁することになった。太宗は、長楽公主は長孫皇后が生んだ子であったので、特に長楽公主をかわいがり、官吏に勅命を下し送別の金銭を（高祖李淵の娘の）永嘉長公主の倍贈らせることにした。魏徴が諫めて言うことには、「昔、漢の明帝は子供に領地を与えようとして言うには、『我が子がどうして先帝の子と同じだけ手に入れられようか、いや、そういうわけにはいかない』と。全員（の領地を先帝の子である）楚王と淮陽王の半分にさせました。今、長楽公主に永嘉長公主の倍の餞別を贈られることは、（我が子よりも先帝の子を重んじた）明帝のお心に違わないことがありましょうか、いや、違っています」と。太宗はその言葉をその通りだとして、宮中に戻り長孫皇后に告げた。皇后が感動して言うには、「私はしばしば陛下が魏徴を称えて重んじられていることを聞いていましたが、その理由を知りませんでした。今、魏徴が正しい道理（の話）を引用して、それで主君の私情を抑制したのを見て、そこで（やっと）本当の国家の重臣であることがわかりました。私は陛下と結婚して夫婦となり、いろいろと恩寵を受けていますが、（陛下に何かを）申し上げるたびに必ずまず先に（陛下の）顔色を窺い、決して軽々しく（陛下の）威厳をそこねることはしません。ましてや家臣で疎遠でありながら、なんとこのように（陛下に）諫言できたのです。陛下は従わないわけにはいきません」と。そこで（皇后は）天子が派遣した使者を遣わして、銭と衣を魏徴にお与えになるようにお願いした。

太宗が以前朝廷から帰って来て、怒って言うことには、「必ずこの田舎じいさんを殺してやる」と。長孫皇后が誰のことかと尋ねた。太宗が言うには、「魏徴が朝廷にあがるたびに私に恥をかかせる」と。長孫皇后は（太宗の前から）退いて、礼服を着て庭に立った。太宗が驚いてその理由を尋ねた。長孫皇后が言うには、「私が聞いているには君主が賢明であれば家臣は直言する、と。今魏徴が（陛下に）直言するのは、陛下が賢明だからです。私は祝わないでいれようか、いや、お祝いいたします」と。太宗はそこで喜んだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二

秦が趙を攻めた。斉と楚が趙を救った。秦が計略を企てて言うことには、「斉と楚が趙を救った。親密になるならば軍隊を（趙から）退却させよう。親密にならないならば、そのまま趙を攻めよう」と。趙は食料が無くなった。穀物を斉に（くれるように）お願いした。斉は許可しなかった。（斉の臣下の）周子が（斉王に）言うことには、「これ〔＝趙に穀物をあげること〕を許可して、そうして秦の軍隊を（趙から）退却させるのに越したことはないです。許可しなければ秦の軍隊は退却しないでしょう。それでは秦の計略が成功して、斉・楚の計略は誤ります。そもそも趙は斉・楚にとっては、自らの身をおおい、敵から守るための防備です。ちょうど歯には唇があるようなものです。唇がなくなれば歯は寒いのです。今、趙が滅亡すれば、将来憂慮することが斉・楚に及ぶでしょう。さらに趙を救う任務は、水が漏れる甕をささげ持って焦げつくかまに水を注ぐようにするのがよいでしょう。そもそも趙を救うことは高潔なる道義（に基づく行為）です。秦の軍隊を退却させるのは名声を高める行為です。道義は滅亡する国を救い、国の威厳は強大な秦の軍隊を退却させます。このことをすることに力を尽くさないで、穀物を惜しむことに力を尽くすのは、国の計略を立てる者の誤りです」と。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答解説　第二講

〔解説〕

① 最後の「可」の送り仮名に「ヲヤ」が含まれていることに気づけば、「況（いは）んや」の抑揚形だとわかる。よって、エが正解。

② 「難V」は返読文字で「V（し）難（がた）シ」、「不如～」は「～ニ如（し）カず」と読む比較形。よって、両方満たしているウが正解。

③ 「将」が問われていれば、まず再読文字「将（まさ）ニ～（ント）す」から考えるのがコツ。直後の「撃」が動詞であることから、「将」を再読文字だと捉えて、文脈上（かまきりが、足をふり上げて、今にも（荘公の車の）車輪に打ちかかろうとしている）も問題ない。「撃」の後ろの「其輪」は目的語。「～ントす」の「ン」は、古文の「む」で未然形接続であるので、「撃」は「うた」と活用させる。

④ 「於」が動詞「請フ」よりも下にあるので、この「於」は「置き字」。「請粟於斉」を「V$_{二}$O於C$_{一}$」に当てはめて、送り仮名をそれぞれ適宜ふると「粟**を**斉**に**請ふ」となる。

⑤ 「於」が述部「捍蔽也。」の上にあるので、「於」の直後の名詞「斉楚」から返って「於（お）ケル（ヤ）」と読み、ここでは「～にとって」の意味になる。よって、「趙は斉・楚にとって（は）」という訳になる。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ まさにそのりんをうたんとす。

④ 粟を斉に請ふ。　⑤ 趙は斉・楚にとって（は）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。